

二〇一四年一月二日(参加者一六名)

五色幕揺るる本堂淑気満つ	ひかり
日だまりに鯉らもすなる日向ぼこ	"
薄日差す磨崖不動に淑気満つ	"
参道の試食ジブシー冬ぬくし	"
雪の道親子の歩幅揃ひけり	小袖
炭出しの頭巾をとれば湯気あがる	"
種火てふ太きろうそく寒の寺	"
湖遠くつぶてに見ゆる浮寝鳥	"
吾を睨む天井の龍淑気あり	宏虎
初夢にみし姑の機嫌よし	"
蠟梅の香やみそぎ橋渡るとき	わかば
東雲の海苔粗朶に添ふ舟の影	"
水餅のおちついてゐる甕の中	よし子
店あかり映るしぐれの石畳	"
着膨れて優先座席ゆずり合ふ	こすもす
すれ違う除雪車三つ目光らせて	"
ポストまでママチャリ飛ばす冬日和	せいじ
新春の京に異国の入あまた	"

女正月とはと問ふ子に教へけり	よう子
寒稽古まず道場の床磨き	"
虫籠窓続く蔵町寒造	菜々
蔵出しの樽高高と寒造	"
葉牡丹で干支を描きし花壇かな	満天
寒晴れや宮水発祥地をめぐる	"
楔川小石を洗ふ淑気かな	つくし
恵方とて険磴に息切れにけり	ぼんこ
注連縄の稲穂をつつく雀どち	百合
蹲踞の辺に実をつけてやぶ柑子	きづな
手作りのケーキの届く初句会	はく子

定例句会みのる選

二〇一四年一月二日(参加者一六名)